

授業科目 日常生活活動学

当教員名】 小林量作 小野宏一 五十嵐進 安達千佳子 佐藤也登志	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

1. 日常生活活動（ADL）の概念、その範囲、各種の評価方法について知識を整理し、問題点の抽出ができるようになる。
2. 問題点に対する目標設定、プログラム立案までできる。
3. 基本的なADLの理解した上で、代表的な疾患・障害のADLについて研鑽する。
4. 学生自身で選択した主題について調査し、そのプレゼンテーションを行う。

【＜行動目標：S B O＞】

1. 概念について理解する。
2. 評価について理解し、各種評価方法の特徴について理解する。
3. 起居動作・移動動作・身の回り動作指導について理解する。
4. 福祉用具についての理解する。
5. 問題点を抽出し、プログラムを立案できる。
6. 各種疾患のADLについて理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1～2	概念、範囲、意義	1	講義 小林
3～4	評価	2	講義 小林
5～6	評価	2	講義 小林
7～8	起居動作 (学生発表)	3	講義・演習 小林
9～10	起居動作 (学生発表)	3	講義・演習 小林
11～12	身の回り動作 (学生発表)	3	講義・演習 小林
13～14	身の回り動作 (学生発表)	3	講義・演習 小林
15～16	移乗動作 (学生発表)	3	講義・演習 小林
17～18	移動動作 (学生発表)	4	講義・演習 小林
19～20	ADLプログラムの立案と指導	5	講義 小林
21～22	片麻痺のADL	4 5 6	講義・実習 安達
23～24	脊髄損傷とADL	4 5 6	講義・実習 五十嵐
25～26	脊髄損傷とADL	4 5 6	講義・実習 五十嵐
27～28	慢性関節リウマチとADL	4 5 6	講義・実習 小野
29～30	骨関節疾患とADL	5 5 6	講義・演習 佐藤

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	日常生活活動学・生活環境学	鶴見隆正編	医学書院	2005
参考書	日常生活活動（動作）－評価と訓練の実際－ 日常生活活動（ADL）	土田弘吉・他編 橋本 隆・他編	医歯薬出版 神陵文庫	1992年 1998年
その他の資料	資料配付			

評価方法】 出席、発表、レポート、期末試験、その他	【履修上の留意点】 教科書の予習を必ず行うこと。
------------------------------	-----------------------------